

— SDGs と町の取り組みとのつながり —

町や団体、地域が行っている取り組みとSDGs(持続的な開発目標)との関わりを「見える化」する「SDGs×平泉町」。第4弾の今回は「環境」をテーマに紹介します。

「SDGsのために自分はどんなことができるだろう」「何をしたらいいんだろう」というときは、町広報を開いてみてください。町の動きに関心を持ち、考え、事業に参加することもSDGsにつながり、「持続可能なまち」への大切な一歩目になります。



SDGs と平泉の環境

陸の生態系や環境を理解・保護し、豊かな恵みを未来につなげる
— 美しく、豊かな里山づくり —

東稲山の桜情景復活事業



世代を超えて取り組み続ける桜の植樹活動

西行法師の歌にも詠まれた東稲山の桜情景を復活させ、後世に伝えていこうと、平成27年に「東稲山さくらの会」が発足し、清掃活動や桜の苗木の植樹など、「西行桜の森」の環境整備に取り組んでいます。

エドヒガンをはじめ約20種、およそ2,200本の美しい桜が東稲山を彩り、毎年、町内に春の訪れを知らせています。

■問い合わせ先…まちづくり推進課 ☎46-5578

平泉中3年生、ガイドを体験
地元の歴史を紹介



平泉中学校の3年生は11月7日、園児や小学生の頃から学習してきた町独自のプログラム「平泉学」の集大成として、平泉ガイド体験を毛越寺と観自在王院跡で行いました。生徒は地元の歴史について、手振りを交えて保護者に紹介し、住んでいる地域への魅力を再認識しました。

平泉学の中で生徒は、テキスト学習や東稲山での大文字送り火の火床作り体験などを通じて、平泉の歴史や文化に関する学びを深めてきました。ガイド体験に当たり、古都ひらいずみガイドの会の協力を得て、分かりやすく伝えるための助言を受けました。

当日は3年生49人が、毛越寺境内の本堂や大泉が池、遺水、観自在王院跡の南門跡など10カ所に分かれ、保護者に解説しました。このうち毛越寺の常行堂では、山平朔太郎さん(16区)と写真左と荒木瑚都さん(21区)と同右が「摩多羅神が祭られ、33年に一度公開されている。作物の神様で、昔から多くの人々に親しまれてきた」「ここでは毎年1月20日に『二十日夜』がある。延年の舞が奉納されるので、足を運んでみて」と呼びかけました。

ガイド体験を終え、山平さんは「聴いている人の目を見て伝えることを心がけた。平泉学で地元の歴史を学び、すてきなところがあると実感できた」と語り、荒木さんは「難しい言葉があり大変だった。ガイドをやったことで、今後、町外の人に平泉の良さを伝えやすくなると感じた」と充実した表情を浮かべました。

日本農業遺産「東稲山麓地域」農林業システム
【第5回】災害を避けるための3つの対策について説明します。

■洪水から「水を守る」
洪水害リスクを分散・低減するため、低平地に農地を所有する農家の87%が、山麓地の農地も所有。同じ低平地でも、年間を通じて水害リスクの低い水田では主食用米を作り、夏秋期に浸水が多い水田では、水害リスクの低い時期に収穫可能な麦を栽培するなど、複数の作目によってリスクを回避してきました。

■干ばつから「水を守る」
貴重な水資源を棚田などへ供給するため、古くからため池や水路を集落共同で維持活用してきました。現在でも約900カ所のため池や湧き水、沢水などを水源として活用するため、地域で維持・保全しています。

■土砂災害による「水から守る」
藩政時代の「御林」(藩政下に領主が管理した山林)の考えを森林組合が継承し、土石流災害の防止と水源の養成を目的に、災害危険個所には広葉樹を植樹するなど、治山治水に取り組んできました。

(東稲山麓地域農業遺産 推進協議会)
ため池の位置図

寄稿 ふるさと平泉会から

江東区民まつりで平泉町ブース盛況
東京都立木場公園で10月14日、「第41回江東区民まつり」写真Ⅱが盛大に開催されました。会場内の「はるばるバザール」には、北海道から、南は沖縄まで全国各地の30市町村が集結し、平泉町からは、江東区民と交流する会の皆さんが出店しました。

平泉町のブース前は、特産品やご当地グルメを買い求める人たちが大変な盛況ぶりでした。特に、平泉銘菓の弁慶餅、日本農業遺産である東稲山麓で収穫された大文字りんごや新米は、行列ができるほど好評でした。ふるさと平泉会の会員や岩手県人連合会といった関係者の皆さんもブースに立ち寄り、平泉の物産をたくさん買い求めていました。



2日目は雨天で中止となりましたが、来年は両日も晴天に恵まれると信じて楽しみに待っていますので、平泉町の生産者の皆さん、今後ともよろしくお願います。

最後に、令和6年1月23日(火)から東京国立博物館で始まる「中尊寺金色堂特別展」を、会員一同大変喜んでいきます。当会の会員や首都圏在住の皆さんを誘って一緒に鑑賞したいと思っています。

(幹事・伊藤裕章)